

ファクトシート：新型コロナウイルス感染症

作成：北海道大学 One Health フロンティア卓越大学院プログラム
獣医学研究院 人獣共通感染症リサーチセンター

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 感染によって引き起こされる感染症です。

1. 病原体

SARS-CoV-2 は、コロナウイルス亜科ベータコロナウイルス属に属するエンベロープを持つ一本鎖プラス鎖 RNA ウイルスです。重症急性呼吸器症候群 (SARS) および中東呼吸器症候群 (MERS) の病原ウイルスである SARS ウイルス (SARS-CoV) および MERS ウイルス (MERS-CoV) など、既に報告されているヒトに対して病原性のあるウイルスも同じウイルス属に分類されています。

2. 流行状況および感染症状

- 本疾病は、2019年12月に原因不明の肺炎として中国の武漢市にて最初に報告されました。世界保健機関 (WHO) は世界での感染拡大を受けて、2020年3月11日に COVID-19 の世界的大流行 (パンデミック) を宣言しました。
- 4月8日時点で、世界中 (170 か国以上) にて 135 万人以上の COVID-19 患者が報告されています。発生国の大半は、多方面にわたる社会影響を考慮すると、発生国の大半では疾病収束は容易ではありません。
- COVID-19 患者の多くは、中等度以下の症状もしくは無症状で経過しますが、約 14% の患者さんは、酸素吸入が必要な重症であり、約 5% は集中治療室 (ICU) での治療が必要となっております。

- **COVID-19** 感染初期では、主に発熱、咳、倦怠感そして息苦しさが見られます。感染後 **1～14** 日の間（平均 **5** 日）で症状が現れます。症状が進行すると肺炎となります。
- 症状を示している感染者は大量のウイルスを排出することから、隔離もしくは治療未実施の場合は、その感染者が最初の感染源となります。しかし、感染者でも症状を示さないこともあることがわかっており、このような自身の感染を認識しない無症状感染者が偶発的に感染を広げることがあります。

3. 疫学および感染様式

- **SARS-CoV-2** の感染は、感染者もしくは飛沫（くしゃみ、咳、つば）にて汚染された媒介物との直接接触によって広がります。実験感染の結果では、**SARS-CoV-2** はプラスチックやステンレスの表面に **72** 時間残存することが分かっています。
- **COVID-19** は世界中に広がっております。感染者の多くは追跡調査によってその感染がわかっております。海外からの輸入感染だけでなく、国内感染者による市中感染拡大も確認されております。
- **4月8日** 現在、日本では、合計 **4,257** 名の新型コロナウイルス感染症患者が報告されており、東京に次いで大阪、千葉、神奈川、愛知、兵庫、埼玉そして北海道で多くの患者が見つかっております。
- これをうけて、**4月7日**、緊急事態宣言が東京、大阪、神奈川、千葉、埼玉、兵庫、福岡に出されました。期間は **5月6日** までです。
- 北海道では、**1月下旬** に、中国の武漢市からの旅行者から新型コロナウイルス感染が初めて確認され、それ以降、感染者が急速に増加しました。これを受けて、**2月28日** から **3月19日** まで、北海道庁は緊急事態宣言を行いました。期間中、市民は週末の自宅待機や人混みの多い場所への自粛、会食等を控えるよう求められました。

4. 診断

- SARS-CoV-2 検出の確定診断法は、定量 RT-PCR 法です。この方法は、患者ならびに患者疑いから採取した拭い液中のウイルス遺伝子を標的としております。
- 胸部 X 線写真結果と組み合わせることにより、有症状患者の診断効率は改善されております。短時間でより高い検出感度のある診断法の確立が現在は進められております。
- さらに、新型コロナウイルスに対する抗体を血液中から検出することを検討している国もあります。

5. 治療

- 現在のところ、新型コロナウイルス感染に特効のある治療法はなく、患者は症状を緩和させる方法を受けております。また、世界中で抗ウイルス効果に関する治療実験が行われております。
- 感染回復後に、再度 COVID-19 感染となる事例が報告されております。これがウイルスの再感染によるものか、それとも以前の感染の残骸によるものかが分かっておりません。また、感染回復患者中の抗体の抗ウイルス作用についても多くは分かっておりません。

6. 予防および感染防御

個人の予防および感染防御

- 水や石鹸、水アルコール溶液やアルコールを使った手指消毒習慣は汚染媒介物を介した感染リスクを軽減させます。
- 風邪になったり咳をしている場合は、飛沫による感染やウイルス拡散を制限させるためにマスクを着用しましょう。
- 咳やくしゃみをするときは、口や鼻をティッシュペーパーで塞ぎ、飛沫拡散を防ぎましょう。
- ティッシュペーパーや使用済みのマスクはゴミ箱に捨てましょう。

- 握手やチークキス、ハグなどの挨拶は控えましょう。
- 物品（コンピュータや電話など）を共有するときには注意をしましょう。
- 顔や目、鼻を手で触るのは極力避けましょう。
- 発熱や寒気を感じた場合は、無料相談に電話しましょう。
- 新型コロナウイルス感染症の患者もしくは患者疑いと接触した場合は、医療従事者に無料相談しましょう。

集団における予防および感染防御

- ウイルス感染を防ぐためにも、濃厚接触を避けましょう。
- 不要の外出や行動を避け自宅待機をすることで、病人や **SARS-CoV-2** 感染者（無症状もや呼吸器症状有りも含む）との接触を極力避けましょう。
- ソーシャルディスタンスを保ちましょう。他者との距離として最低 **2**メートルを保ちましょう。とりわけ、発熱や寒気がある人や咳をしている人とは心がけましょう。
- 発熱や咳、寒気や呼吸器症状がある場合は、自宅に待機した上で無料相談に自身の状況を報告してください。それにより早めの自主隔離やマスク着用の上での通院を指示されます。
- 身近に病人が居たら報告してください。また命を守る行動や感染者の特定にご協力ください。

7. 社会の対応

- 新規の集団感染（同じ時期かつ場所での感染者の集団発生）の早急の特定は、市中感染を制御する上で非常に重要です。
- 外国では、**COVID-19** の大規模感染を食い止める目的で特定の地域の封鎖などを行っております。この結果、医療状況の改善、抗ウイルス薬の特定および良質なワクチン製造につなげております。
- 流行地域から移動した人については、最低 **14** 日間の検疫を受けてもらいます。また、全ての感染者に対して隔離を実施しております。

8. 個人の対応

- 日本政府が設定した下記の条件に当てはまる場合は、救急安心センターさっぽろ ([011-272-7119](tel:011-272-7119)) まで電話してください。
 - 37.5 度以上の発熱が 4 日間続いている。
 - 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある。
 - （65 歳以上の）高齢者、（糖尿病、心不全、呼吸器疾患などの）基礎疾患をお持ちのかた、化学療法を受診している方は、37.5 度以上の発熱が 2 日続く場合又は強いだるさや息苦しさがある場合。
- 緊急ではないが、COVID-19 感染に関するご用件は、厚生労働省電話相談窓口（フリーダイヤル）([0120-565-653](tel:0120-565-653)) にご相談ください。

9. 関連情報

- Coronavirus disease (COVID-19) Pandemic in WHO
<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019>
- 新型コロナウイルス感染症について（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
- 新型コロナウイルス感染症に関するご相談・お問合せ（北海道庁）
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tkk/koronasoudantoiawase.htm>